

## 1 提案の概要

### (1) 主張点

- 子ども「学び合う必要感」を引き出し、主体的に学びに取り組ませるために
  - ① 学習問題設定、問題解決の過程において、子どもの「なぜ？」を引き出す「ゆさぶり」を行う。
  - ② 学習問題設定の場面において友だちとの意見のずれを明らかにさせる「発問」を行う。

### (2) 具体的な実践

- ① 子ども「なぜ？」を引き出す「ゆさぶり」

【文章表現上の順序、一定の観点に基づいた順序に気付かせるためのゆさぶり】

- 本文の内容を意識させるために、事例1「50円玉」の文章をばらばらに貼り、「順番が違うだけだからいいんじゃないか。」「にいださんは、何をどんな順番で書いているの。」とゆさぶった。すると、子どもたちは、学び合いを通して、1つ目のまとまりが穴の空いている場所であること、「～ためのあなです。」という言葉から2つ目のまとまりが穴の役割であること、3つ目のまとまりが穴の役割か説明であることを見つけることができた。
- 3つ目のまとまりの内容を明確にするために、「どちらも穴の役割やそれについての説明なら、3つ目のまとまりはいらないのではないか。」とゆさぶった。すると、子どもたちは、学び合いを通して「あながなかったら」という言葉や内容から3つ目のまとまりは穴の役割や空いている理由についての「詳しい説明」であることを見つけることができた。
- 筆者の表現の工夫に気付かせるために、すべての事例が同じ観点、同じ順番で書かれていることを見つけさせた後で、「なぜ、にいださんは4つとも同じ順番で説明しているのだろう。」とゆさぶった。すると、子どもたちは、学び合いを通して、同じ順番で書くと読んでいる人が分かりやすいことや、同じ順番で書くことがにいださんの工夫の一つであることに気付くことができた。

- ② 意見のズレを明らかにする「発問」

【「はじめ・中・おわり」に何を書けばよいかを理解させるための発問】

題名から「問い」が何か、「問い」はどこにあるかについて子どもたちと確認した後、「この穴の役割ってどんな役割？」という『問い』の『答え』は、はじめ・中・おわりのどこにあるのだろう。」と投げかけた。そして、立場を明確にさせた上で、「どうして意見が分かれたんだろう？」と問い、そのずれがおこった理由を話し合う中で「はじめ・中・終わり」の内容に対しての各自の考えのずれを明確化させた。

また、理由を話し合う中で、「穴の役割って、区別するための穴、ひっかけるための穴～の4つの役割だけかな？」とゆさぶり、より抽象的な言葉「いろいろな役割」が「おわり」にあることに気付かせた。

その結果、子どもたちは、「はじめ」の段落に「問い」があり、「おわり」の段落に「答え」があるということ、「中」には詳しい説明があるということ等、説明文の文章構造について学ぶことができた。

## 2 成果

- ・ 「ゆさぶり」をかけたたり、「ずれ」を明らかにしたりすることで、子どもたちは必要感をもって主体的に学習に取り組み、友だちと意見を交流させながら筆者の書き方の工夫に迫ることができた。それにより、説明文の書き方を理解することができた。
- ・ 子どもたちは、生活科「1年生とのおもちゃまつり」でのおもちゃの説明文や「6年生を送る会」でのゲームの説明文を書く際に、本実践で学んだことを生かすことができた。

## 3 課題

- ・ ねらいに迫っていくための発問を発達段階に応じて精選しなければならない。
- ・ 子ども同士が交流し、学び合いを進める場合、どのような交流形態を選択するか、話し合いの観点や目的、時間の設定をどのようにするかなどが重要となる。発達段階を踏まえ、実践していかなければならない。